

く る め じょう か まち い せき
久留米城下町遺跡

—第29次発掘調査報告—



平成31(2019)年3月
久留米市教育委員会

序

久留米市は、筑紫平野の中央に位置し、水路と陸路の要所であることから、古くから筑後地域の政治・経済・文化・宗教の中心地として発展をとげてきました。

今回の調査は、久留米市中心部の通町で実施しました。通町は久留米城下を東西に貫く都市軸であり、近世から現代まで久留米の経済の中心としての役割を果たしました。

調査では江戸時代初頭から続く町屋の遺構や数々の生活用品が発見され、久留米城下町の形成過程を解明する貴重な資料が得られました。

今回の成果を活かして、久留米市の市民文化や教育の発展に貢献できれば幸いです。また、発掘調査に際して多大なご協力をいただきました土地所有様ならびに周辺住民の皆様に心より御礼申し上げます。

平成31年3月31日

久留米市教育委員会
教育長 大津 秀明

例言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち、平成30年度に鳥取幸博氏の委託を受けて実施した、久留米城下町遺跡第29次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の江頭俊介が担当した。
3. 本書に掲載した遺構実測図の作成は、江頭と山口誠也、舟越朝菜、丸山裕見子が行い、浄書は「遺構くんcubic」で江頭、今村理恵及び山元博子が作成した。
4. 遺構写真は、マミヤR B67を用いて江頭が撮影した。遺物写真撮影はニコンデジタルカメラD700を用いて、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、江頭が行った。なお、本文中の遺物番号と写真図版の遺物番号は同一である。
5. 遺構実測図は国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基に作成し、図面の方位は全て座標北を示す。なお、熊本地震に係るパラメータ補正は行っていない。
6. 本書に使用した遺構の略記号は、S Bー建物、S Eー井戸、S Kー土坑、S Pーピットを示す。
7. 出土遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
8. 本調査の略記号はL KMー029、調査番号は201801である。
9. 本書の執筆・編集は江頭が行った。
10. 表紙写真は、S E62掘削状況（東から）である。

本文目次

I. はじめに	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	4
IV. 総括	16

I. はじめに

1. 調査に至る経緯

本調査は、共同住宅建設に伴う事前の発掘調査である。平成29年11月14日、土地所有者鳥取幸博氏より、久留米市通町103-5、日吉町71-1における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地一帯は、かつての通町五丁目の範囲内にあたり、今回の調査地においても、江戸時代以前の遺構が残存している可能性があると考えられたため、発掘調査が必要である旨回答した。翌30年2月6日土地所有者より発掘調査の依頼が提出され、それを受けて久留米市と鳥取幸博は、4月4日埋蔵文化財発掘調査にかかる委託契約を締結し、久留米市教育委員会は4月11日より、発掘調査を開始した。平成30年6月14日に発掘調査を終了し、その後、平成31年3月31日まで整理作業と報告書の作成を行った。調査面積は170㎡である。

2. 調査の体制

調査委託者：鳥取幸博

調査主体：久留米市教育委員会

調査担当：市民文化部文化財保護課

部長：松野誠彦

文化芸術担当部長：宮原義治

次長：西村信二

文化財保護課長：水島秀雄

課長補佐：久保田由美

主査：水原道範

事務主査：塚本映子

調査担当：江頭俊介 長谷川桃子

整理担当：米澤美詠子 今村理恵 宮崎彩香

発掘調査臨時職員

青木佐智子、石橋康子、居石寿智、鐘ヶ江清、進上裕永、平田広之、福田猛、諸藤稔、山口誠也、山下洋子

発掘調査整理臨時職員

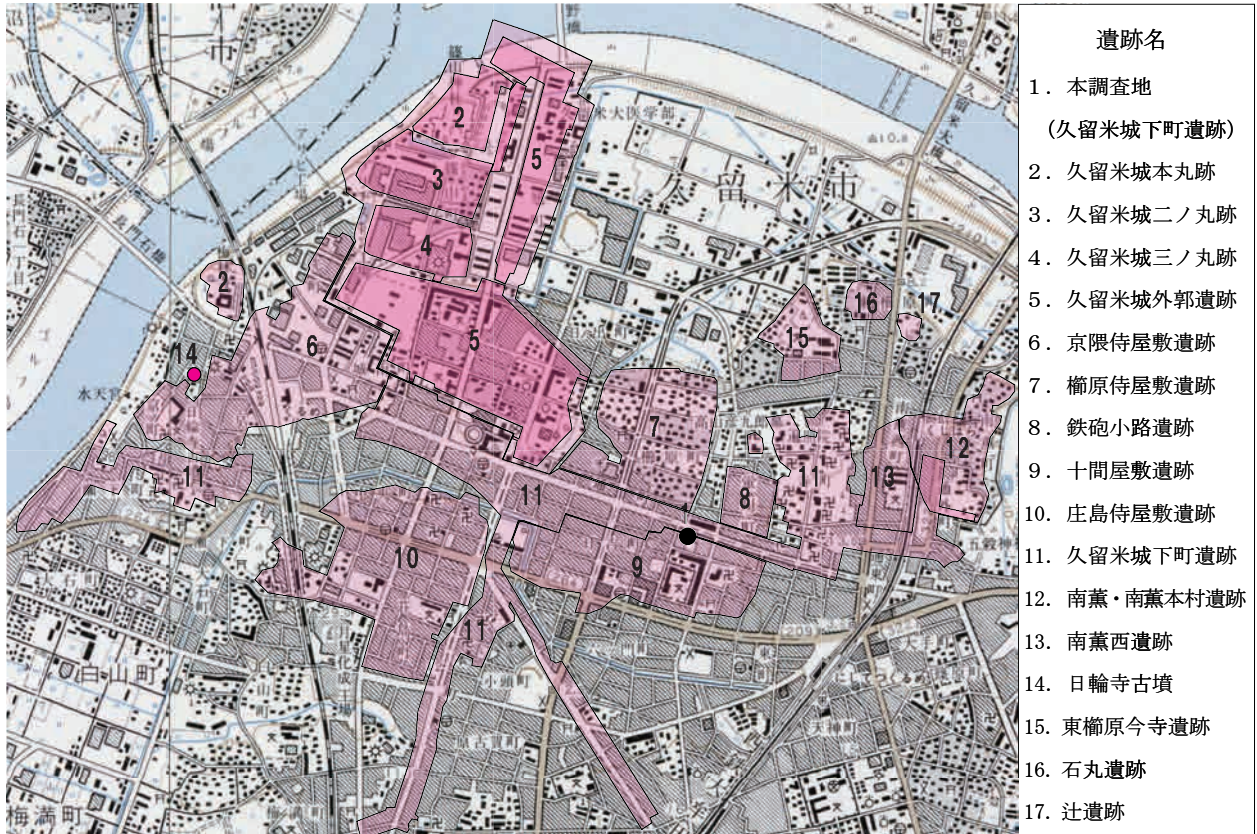
丸山裕見子

3. 調査の目的と経過

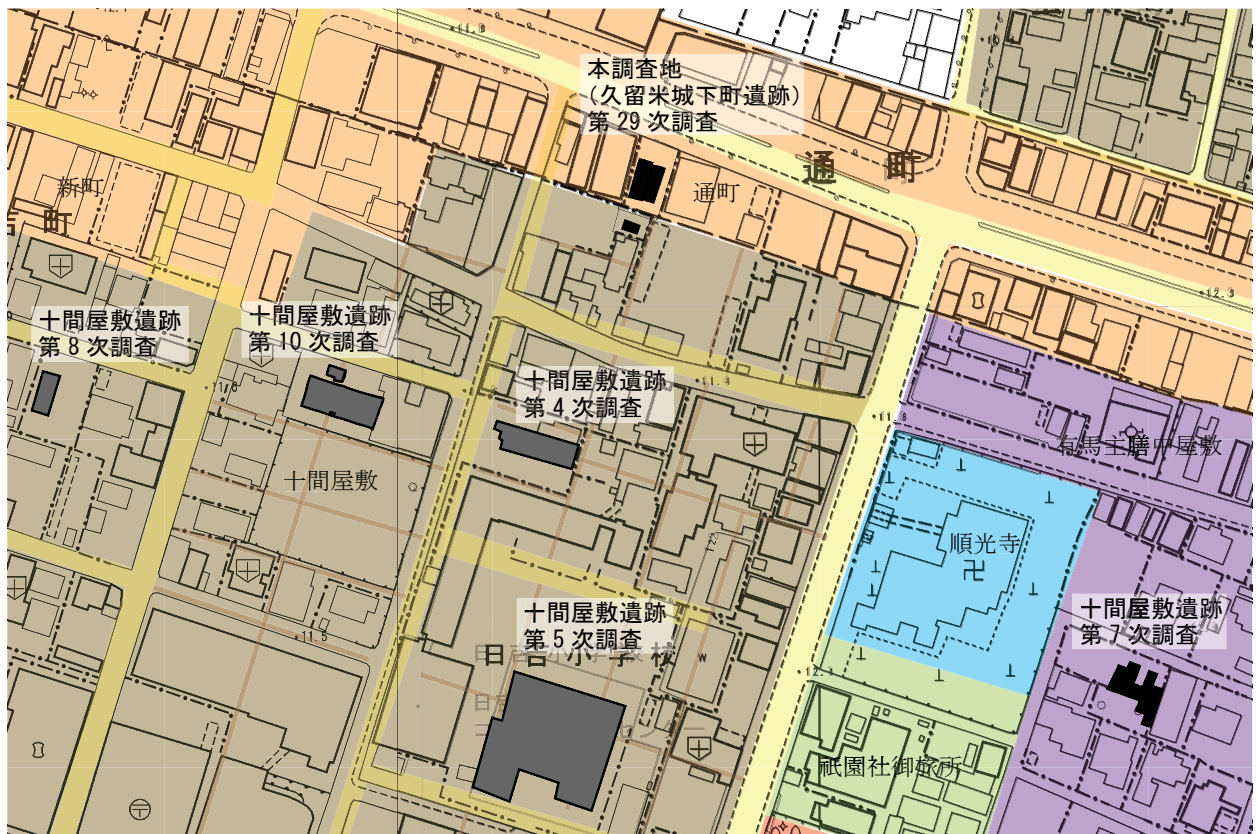
調査地は近世久留米城下の基軸となる通町に立地しており、近世以前の土地利用の状況を確認することを目的として調査を行った。平成30年4月11日、表土剥ぎを開始した。地表下1mで暗褐色の地山を検出し、遺構検出を行った。廃土置き場の確保のため調査区を西、東、南の各区に三分し、西区から調査を行った。5月14日に西区の全景写真撮影を行い、続いて西区の埋め戻しと東区の表土剥ぎを行った。6月12日に東区の全景写真撮影を終え、東区埋め戻しと同時に南区の確認調査を実施し、6月14日に調査を終了した。遺構実測はトータル・ステーションで行い、「遺構くんcubic」で編集した。記録写真は、カラーリバーサル、モノクロともに、6×7判で撮影した。

II. 位置と環境

福岡県久留米市は、九州の北部、筑後川の中流域にあたり、筑紫平野の中央に位置する。九州一の大河筑後川は、熊本県阿蘇郡瀬の本高原に端を発し、うきは市荒瀬から西は平野部を西流する。久留米市北西部で南に方向を変え有明海に注ぐ。4県にまたがる流域面積は2,860平方キロメートルを有する。筑後川の堆積作用によって形成された筑紫平野は、有明海の最奥部に位置する九州最大の平野であり、北西を脊振山地、北東を古処山系、南東を耳納山地に囲まれ、西方と南東方に開けている。筑紫平野の中央は脊振山地から派生する丘陵と耳納山地から派生する段丘が東西両側から突出しており、筑後川を挟んで地峡部を成している。この地峡の北西側の丘陵上には肥前一宮である千栗八幡宮が鎮座し、南東側の段丘頂部には久留米城が位置する。「隈文書」「報恩寺々領坪付之事」応永25年(1418)2月28日付文書には「くるめ屋敷」、「久留米屋敷」、「久留目屋敷」の記述がある。続いて、「鷹尾神社関係文書」応永27年(1420)7月「溝口目安申状案」に「久留目方」の記述がある。いずれも「久留米」は高良山関係者を指すと考えられている。「久留米城」は「九州治乱記」(1720)において、天文2年(1533)正月、大友氏と大内氏の合戦が筑後地方に波及し、大内方の武将陶興房が久留米・安武の両城を落とした際のこととして、久留米城主豊饒美作入道永源が肥前東津村に退いたことが記され、『久留米市史第1巻』によると、大永年間(1521~1527)には、高橋某が「笹山城」に砦壘を築いたとされる。次に『筑後将士軍談』では、天正13年(1585)龍造寺氏と大友氏が筑後地方で争い、久留米城に籠る高良山座主麟圭が龍造寺勢を筑後川左岸に引き入れたとされる。天正13年(1585)9月には筑紫氏が大友方の武将高橋紹運の本城、宝満城を攻撃したことにより、高良山に在陣していた高橋勢が筑後から撤退する。その際久留米城は龍造寺方の内田紀伊守信堅と姉川中務大輔信安が城番を務めたことが記されている。その後秀吉による九州出兵を経て、久留米3万5千石(諸説あり)が毛利元就の九男小早川秀包に与えられた。秀包領であった関ヶ原合戦までの14年間の久留米城下の姿は未だ詳らかでないが、両替町遺跡(久留米城下町遺跡第1次)の調査でロザリオや教会堂の遺構が検出されていることや、久留米城下が当時のキリスト教の布教拠点として機能していたことから、すでに相当規模の街区が形成されていたことが窺える。関ヶ原合戦後には、久留米城は柳川城主田中吉政の支城となり吉政の四男則政が配置されたが、この頃も二ノ丸の拡張や、筑後川梅林寺岸の開削など大規模な都市整備事業が行われた。本調査地が位置する通町(当時の呼称は長町)はこの頃すでに四丁目までが存在し、通町と交差する三本松町や、川港である洗切、ほかに内町、元町などが形成されていた。田中家の改易に伴い元和7年(1621)に有馬豊氏が北筑後21万石の領主として久留米に封ぜられ、引き続き外郭の造成や町の延伸拡張を行った。通町は寛永4年(1627)から東へ拡大し、寛永19年(1642)には九丁目まで延伸した。本調査地の西区及び東区は元禄図及び延宝図においては長町五丁目、明治5年通町絵図では通町五丁目にあたり、天保図でのみ通町三丁目にあたる。南区は、天保図以降は十間屋敷の北端にあたる。現在も屋敷地と町屋の境に石垣造りの水路が流れており、調査時までは鉄板を敷いて蓋がされた状況であった。



第1図 周辺の遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 調査区位置図 (1/2,500)

Ⅲ. 調査の記録

1. 検出遺構

近世の建物1棟、溝1条、井戸7基、土坑31基、ピット等が検出された。主要な遺構について以下に記す。

掘立柱建物

SB1 (第3・4図)

西区北端で検出された掘立柱建物である。調査区狭小のため1間×1間のみの検出となっているが、この遺構のP3-P4のラインを南限として、北側及び西側に建物が伸びるものと考えられる。南北に細長い敷地の形状から、南北方向を桁、東西方向を梁と考える。桁行は1間以上で柱間は2.0mである。梁行は1間以上で柱間は2.8mである。柱穴はP1及びP2は径0.7mの平面円形を呈し、深さは0.3mを測る。南梁のP3及びP4は長辺1.6m、短辺0.8mの隅丸方形を呈し、深さは0.4mを測る。いずれの柱穴も埋土に10cm大の栗石が充填されていた。遺物は17世紀代の陶磁器を含むが、19世紀の遺物が主体を成す。SK18やSE23を切る。

井戸

SE20 (第3・4図)

西区南側で検出された直径2.4m、深さ1.0m以上の素掘りの井戸である。裏込めを施さず、直掘りである。壁面は直立する。埋土は真砂が充填されている。遺物は17世紀前半から中頃の陶磁器が主体を占める。検出当初はSE21を切っていると判断したが、遺物の整理を経て、切り合いが逆であったことがわかった。

SE21 (第3・5図)

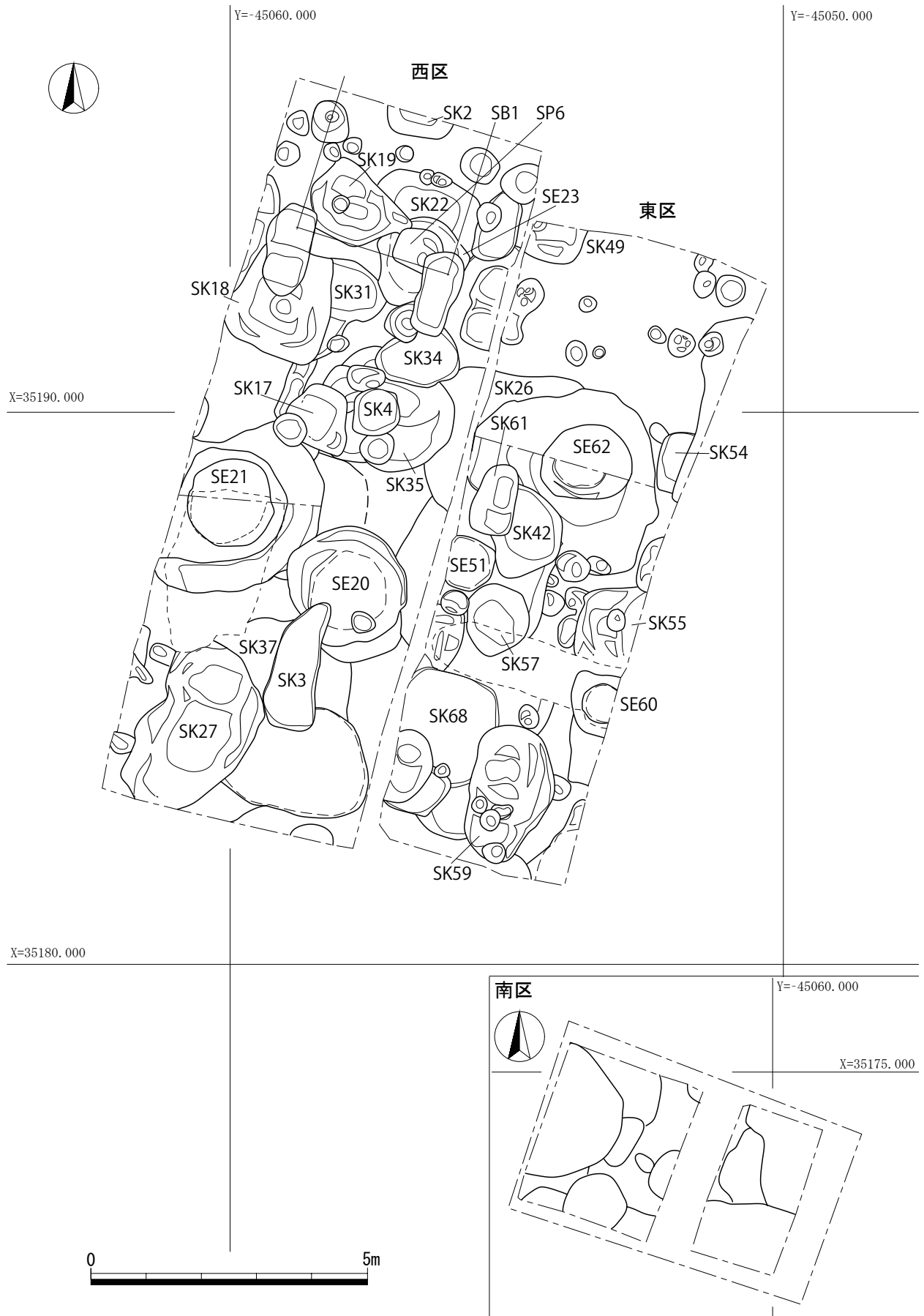
西区中央で検出された素掘りの井戸である。上部0.5mは裏込めを有する。掘方の直径は3.3mを測り、本体の直径は2.0mを測る。深さは、安全衛生上1.3mまでしか掘り下げていないが、湧水層には達していない。断面は掘方・本体ともに逆台形を呈する。掘方の埋土は褐色粘質土と暗褐色土が互層を成し、裏込めとして機能させるために固く締められている。本体の埋土には、上部0.5mは真砂が使用されているが、それ以下は暗褐色土である。遺物は18世紀の陶磁器や寛永通宝が出土している。検出当初はSE20に切られると判断したが、遺物整理の結果、SE20より後出すると考えられる。

SE23 (第3・4図)

西区北側で検出された素掘りの井戸である。直径1.7m、深さ0.7m以上であり、裏込めを有しない。埋土は真砂で充填されている。遺物は17世紀前半の陶磁器が出土している。SB1、SK19に切られる。検出当初はSK22を切ると判断したが、遺物整理の結果逆であることがわかった。

SE51 (第3・4図)

東区中央で検出された素掘りの井戸である。直径1.0m、深さ1.0m以上を測る。埋土は暗褐色を



第3図 遺構配置図 (1/100)

呈する。18世紀中頃から後半の陶磁器が出土している。

SE60 (第3・7図)

東区東端で検出された井戸である。土師質及び瓦質の大甕を三段以上重ねて井戸枠としている。掘方の直径は1.0m、井戸枠の直径は0.7mを測り、深さは1.0m以上である。埋土は暗褐色土が主体を成し、裏込めも同様である。遺物の出土はない。

SE62 (第3・5図)

東区北側で検出された素掘りの井戸である。掘方の直径は3.3mを測り、深さは1.5mで断面は逆台形を成す。本体は直径1.5m、深さ1.7m以上を測る。掘方の断面は逆台形を呈する。掘方の埋土は暗褐色土や褐色粘質土が互層を成す。本体の埋土は上部0.5mが暗褐色土、それ以下に1.0mほど真砂が充填され、さらにそれ以下は暗褐色土である。遺物は本体・掘方ともに17世紀前半の陶磁器が出土している。SK42、SK61に切られる。

土坑

SK2 (第3・5図)

西区北端で検出された土坑である。長辺0.2m、短辺0.4m、深さ0.3mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は18世紀代の陶磁器や壁土などが出土している。

SK3 (第3図)

西区南側で検出された土坑である。長辺2.3m、短辺0.8m、深さ0.2mを測る。平面形は不正楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は近世の陶磁器や釘、寛永通宝などが出土している。SE20、SK28を切っている。

SK4 (第3図)

西区中央で検出された土坑である。一辺0.8m、深さ0.4mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は18世紀後半以降の陶磁器などが出土している。SK35を切っている。

SK17 (第3・6図)

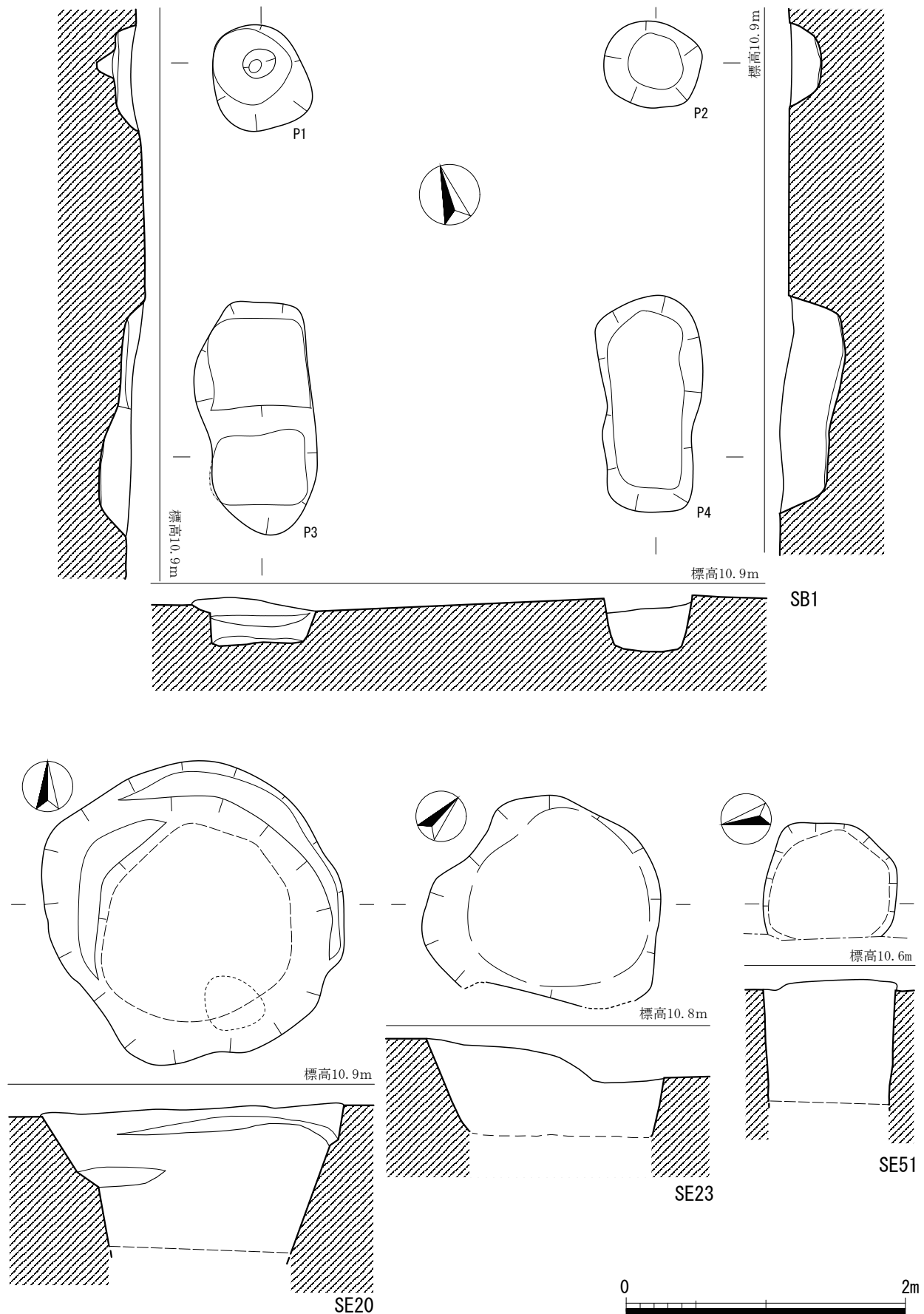
西区中央で検出された土坑である。一辺1.1m、深さ0.7mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は17世紀代の陶磁器などが出土している。

SK18 (第3・6図)

西区北端で検出された土坑である。長辺1.9m、短辺1.8m、深さ0.6mを測る。平面形は方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は17世紀代の陶磁器などが出土している。SB1に切られ、SK31を切っている。

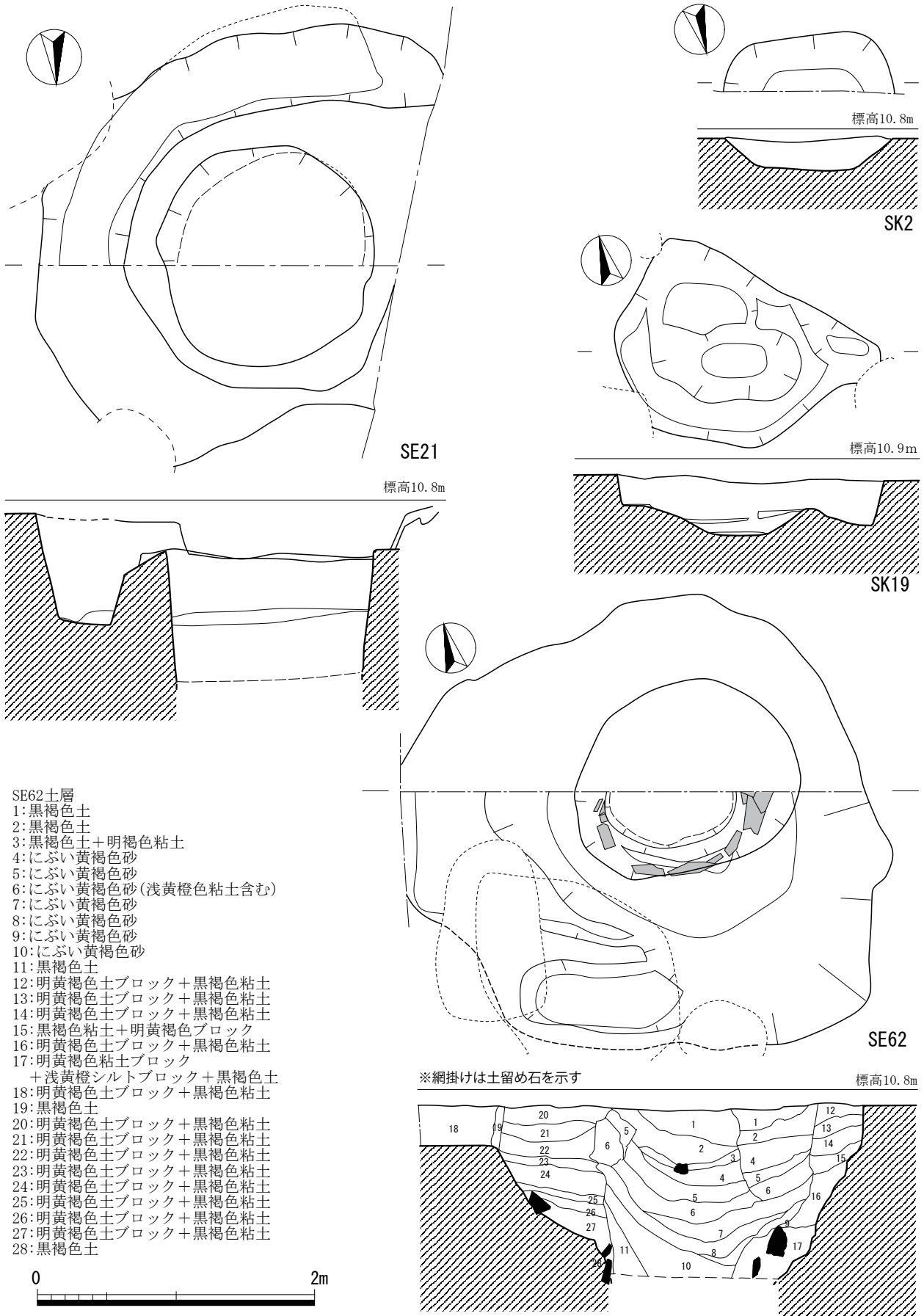
SK19 (第3・5図)

西区北端で検出された土坑である。長辺1.8m、短辺1.3m、深さ0.4mを測る。平面形は不正楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は17世紀代の陶磁器などが出

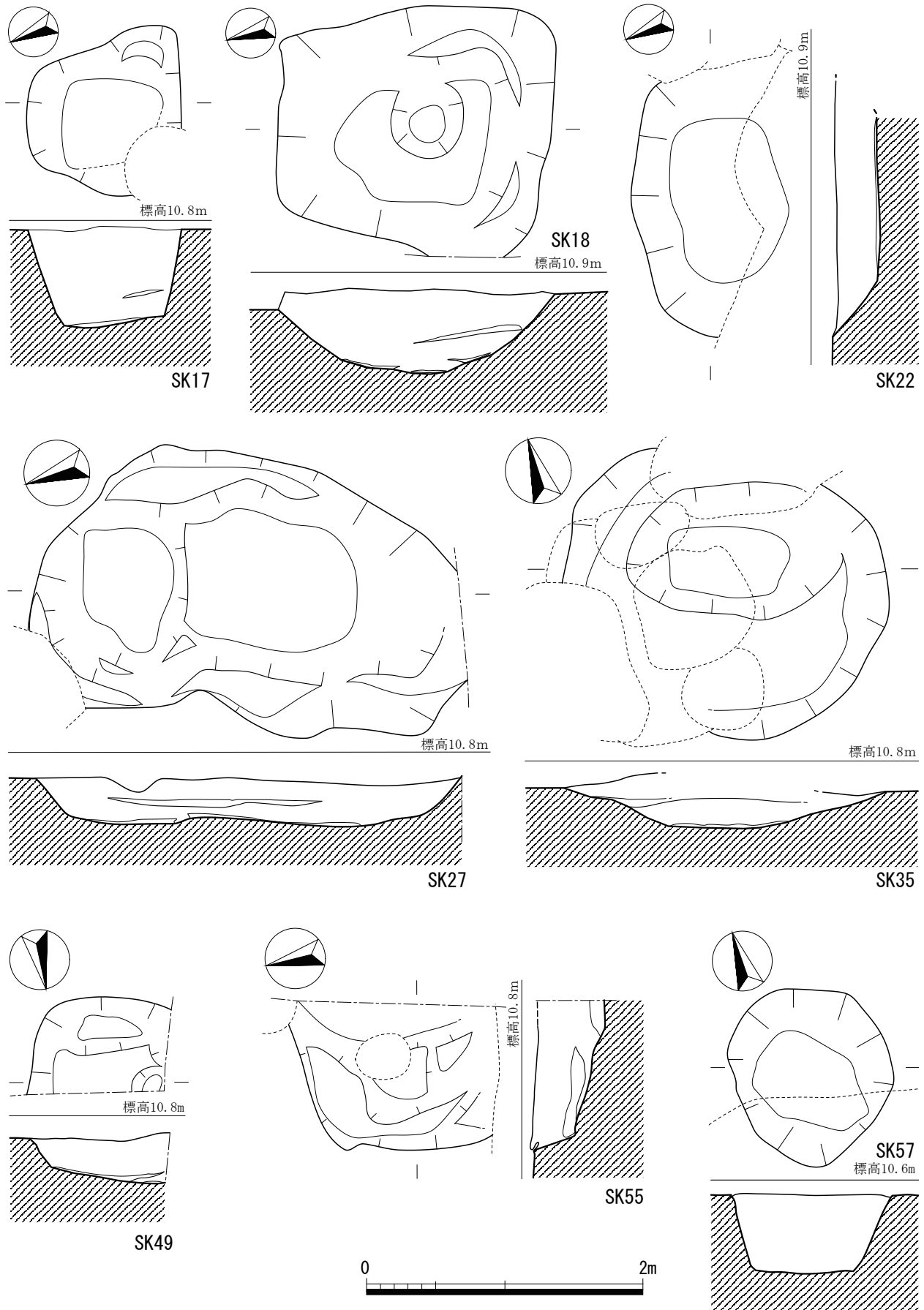


第4図 SB1、SE20、SE23、SE51遺構実測図 (1/40)

III. 調査の記録

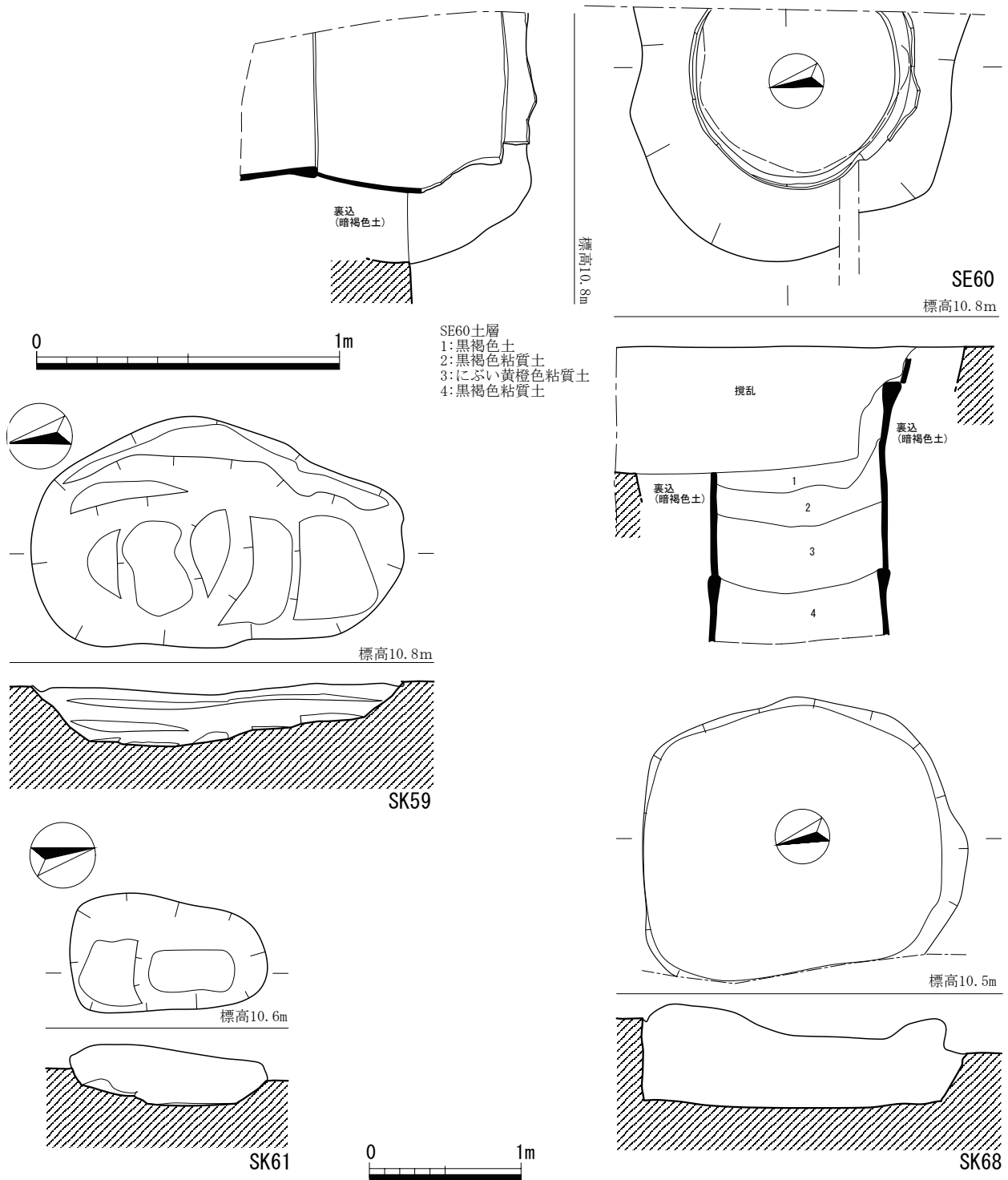


第5図 SE21、SE62、SK2、SK19遺構実測図 (1/40)



第6図 SK17、SK18、SK22、SK27、SK35、SK49、SK55、SK57遺構実測図 (1/40)

III. 調査の記録



第7図 SE60、SK59、SK61、SK68遺構実測図 (1/20、1/40)

土している。SE23、SK22を切っている。

SK22 (第3・6図)

西区北端で検出された土坑である。長辺1.9m、短辺1.1m、深さ0.3mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は18世紀代の陶磁器や壁土などが出土している。SK19、SE23に切られる。

S K26 (第3図)

西区東端及び東区西端で検出された土坑である。長辺2.7m、短辺2.4mを測る。工期の都合上、上面5cm程度しか掘り下げることができなかつたため、深さは不明である。平面形は隅丸方形を呈し、埋土は暗褐色土である。上面確認にもかかわらず遺物は多く、17世紀代の陶磁器などが出土している。各遺構に切られる。

S K27 (第3・6図)

西区南端で検出された土坑である。長辺3.0m、短辺2.0m、深さ0.4mを測る。平面形は不正楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は多く、17～18世紀代の陶磁器などが出土している。S K28を切っている。

S K31 (第3図)

西区北端で検出された土坑である。長辺1.8m、短辺1.0m、深さ0.1mを測る。平面形は不正楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は17世紀代の陶磁器などが出土している。S K18、S E23に切られる。

S K34 (第3図)

西区北端で検出された土坑である。長辺1.4m、短辺1.0m、深さ0.3mを測る。平面形は不正楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は16～17世紀代の陶磁器や土器などが出土している。検出当初はS K35を切っていると判断したが、遺物整理の結果を鑑みると、切り合いが逆であった可能性がある。

S K35 (第3・6図)

西区中央で検出された土坑である。長辺2.2m、短辺1.9m、深さ0.3mを測る。平面形は円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は17世紀代の陶磁器などが出土している。S K4に切られる。

S K37 (第3図)

西区南側で検出された土坑である。長辺2.3m、短辺1.1mを測る。平面形は円形を呈する。工期の都合上掘り下げていないが、上面から17世紀代の陶磁器が出土している。S K3、S K27に切られる。

S K42 (第3図)

東区中央で検出された土坑である。長辺1.8m、短辺1.2m、深さ0.3mを測る。平面形は不正楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は18世紀代の陶磁器などが出土している。S K61を切っている。

S K49 (第3・6図)

東区北端で検出された土坑である。長辺0.9m、短辺0.6m、深さ0.3mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は17世紀代の陶磁器などが出土している。

SK54 (第3図)

東区中央で検出された土坑である。長辺1.1m、短辺0.4m、深さ0.4mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は17世紀代の陶磁器などが出土している。

SK55 (第3・6図)

東区中央で検出された土坑である。長辺1.4m、短辺1.0m、深さ0.5mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は18世紀代の陶磁器などが出土している。

SK57 (第3・6図)

東区中央で検出された土坑である。直径1.2m、深さ0.6mを測る。平面形は円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は17世紀代の陶磁器などが出土している。

SK59 (第3・7図)

東区南側で検出された土坑である。長辺2.5m、短辺1.5m、深さ0.5mを測る。平面形は不正楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は18世紀代の陶磁器などが出土している。検出当初はSK68を切っていると判断したが、遺物整理の結果切り合いが逆であったことがわかった。

SK68 (第3・7図)

東区南側で検出された土坑である。長辺2.1m、短辺1.7m、深さ0.6mを測る。平面形は不正楕円形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は19世紀代の陶磁器などが出土している。

ピット

SP6 (第3図)

西区北側で検出されたピットである。長辺0.8m、短辺0.7m、深さ0.9mを測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は逆台形を呈する。埋土は暗褐色土である。遺物は16世紀代の瓦質土器や17世紀の陶磁器などが出土している。

2. 出土遺物

今回の調査ではパンコンテナー10箱分の遺物が出土した。17世紀の陶磁器や土器が最も多く、18世紀、19世紀の陶磁器等がそれに次ぐ。紙面の都合上法量等の詳細は遺物観察表を参照願いたい。

特記すべき遺物としては、SK4出土の19世紀の陶器の仏花器(52)があげられる。外器面に「口川常薫」の印刻が施されており、現在もブランド名が残る線香である柳川の常薫とみられる。

また、17世紀の井戸SE62の裏込めから出土した磁器瓶(38)の底部外面には、「三郎右衛門」と呉須で描かれている。釉は生掛けであり、砂目が付着している。

第1表 出土遺物観察表①

遺物 番号	図番号	出土遺構	材質	器種	法量			色調		調整(文様)			胎土・備考	登録 番号
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	底面 高台		
					(長)	(幅)	(厚)							
1	第53図	S B1P4	磁器	小碗	7.2	3.5	5.3	染付		松葉文	—	—	内面紅付着	201801 000005
2	第53図	S B1P4	磁器	蕎麦猪口	8.4	(6.2)	5.8	染付		松・園線 口縁	—	—	蛇ノ目凹高台	201801 000006
3	第53図	S B1P3	陶器	碗	—	4.0	(2.2)	藁灰釉		—	—	砂目	17c	201801 000002
4	第53図	S B1P3	陶器	碗	—	(4.2)	(1.3)	灰釉		—	砂目	砂目・兜巾	17c	201801 000003
5	第53図	S B1P3	陶器	香炉	—	—	(5.6)	褐釉		刷毛目文	ナデ	—	17c	201801 000004
6	第53図	S B1P1	陶器	壺	—	—	(9.7)	褐釉		—	タタキ	—	—	201801 000001
7	第53図	S E20	磁器	皿	—	7.0	(1.6)	染付		「霽」?	鶴・花	蛇ノ目高台 砂目	17c	201801 000033
8	第53図	S E20	磁器	皿	(13.4)	(8.5)	3.1	染付		園線・草	草花	園線	～18c前半	201801 000034
9	第53図	S E20	磁器	瓶	—	—	(8.6)	染付		網文	—	—	17c後半	201801 000035
10	第53図	S E20	磁器	香炉	(14.4)	(12.8)	7.4	青磁		—	—	三足	釉生掛け	201801 000036
11	第53図	S E20	陶器	皿	—	—	(1.5)	透明釉		—	—	—	17c	201801 000037
12	第53図	S E20	瓦質土器	鉢	(3.5)	(3.5)	(2.9)	赤灰	褐灰	ナデ	ナデ	—	外面赤彩 狐(稲荷くわえ)	201801 000039
13	第57図	S E20	鉄製品	釘	(9.1)	2.1	1.0	—		—	—	—	和釘 22.3g	201801 000150
14	第57図	S E21	銅製品	寛永通宝	2.5	2.5	0.2	—		—	—	—	古寛永 3.2g	201801 000151
15	第53図	S E21	磁器	紅皿	2.5	1.0	1.3	白磁		型押花形	—	—	—	201801 000038
16	第53図	S E23	磁器	碗	—	—	(4.1)	染付		園線	—	—	17c 釉生掛け	201801 000045
17	第53図	S E23	陶器	碗	—	(4.3)	(2.1)	褐釉	鉄絵	—	草	高台無釉	絵唐津	201801 000046
18	第53図	S E23	陶器	壺	—	—	(5.0)	褐釉		ナデ	ナデ	—	—	201801 000047
19	第53図	S E23	土師器	土鍋	—	—	(3.8)	灰釉	にぶい橙	煤付着・ナデ	ハケメ	—	16～17c	201801 000048
20	第57図	S E26	銀製品	豆板銀	2.0	1.6	0.6	—		—	—	—	銅混入(緑青) 9.05g	201801 000152
21	第53図	S E51	磁器	碗	(9.8)	(4.0)	5.9	染付		蔓草・岩	—	記号あり	18c中～ くらわんか手	201801 000114
22	第53図	S E51	磁器	小碗	—	3.4	(3.8)	染付		園線	園線	園線	—	201801 000115
23	第53図	S E51	磁器	碗	11.4	(4.8)	4.6	染付		梅・草・岩	—	高台量付釉かき	18c前半～中	201801 000116
24	第53図	S E51	磁器	八角皿	(14.0～ 14.6)	(5.8)	2.8～ 3.3	染付		—	松・岩 草・砂目	兜巾・砂目	17c前半 釉生掛け	201801 000117
25	第53図	S E51	磁器	小皿	5.4	(10.8)	2.0	染付		園線	鳳凰・宝 砂目	砂目	17c 釉生掛け	201801 000118
26	第53図	S E51	磁器	仏飯器	(7.8)	3.6	5.9	白磁		—	—	高台量付釉かき	—	201801 000119
27	第53図	S E51	陶器	碗	9.6	5.3	6.7	褐釉		—	—	砂目 高台量付釉かき	—	201801 000120
28	第53図	S E51	磁器	碗	12.9	4.7	5.9	色絵		—	梅 蛇ノ目釉剥	高台量付釉かき	二次被熱	201801 000121
29	第53図	S E51	磁器	壺	—	6.8	(9.6)	藁灰釉		—	—	—	—	201801 000122
30	第53図	S E60 上から2段目	土師器	大甕	(70.4)	—	(24.8)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ	ナデ	—	—	201801 000129
31	第53図	S E60 上から3段目	土師器	大甕	(80.0)	—	(28.7)	にぶい橙	にぶい橙	ハケメ	ハケメ	—	—	201801 000130
32	第53図	S E62 埋土	磁器	大皿	—	(11.2)	(3.8)	染付		草	窓・岩・草	砂目	17c	201801 000131
33	第53図	S E62 埋土	磁器	皿	(11.8)	5.2	4.0	染付		草花・鶴	草・山水 園線	砂目	17c前半	201801 000132
34	第53図	S E62 埋土	磁器	碗	—	—	(5.0)	染付		牡丹	園線	—	—	201801 000133
35	第53図	S E62 埋土	陶器	壺	(21.8)	—	(5.5)	褐釉		タタキ・ナデ	タタキ・ナデ	—	—	201801 000134
36	第53図	S E62 埋土	瓦	丸瓦	25.3	13.9	1.8	灰		ナデ	布目・ナデ	—	完形	201801 000135
37	第53図	S E62 埋土	瓦	丸瓦	27.7	13.3	1.7	褐灰		ナデ	布目・ナデ	—	ほぼ完形	201801 000136
38	第53図	S E62 裏込	磁器	瓶	—	(8.4)	(3.0)	染付		園線	—	砂目・やぐら巾 「三郎右衛門」	17c 釉生掛け	201801 000137
39	第53図	S E62 裏込	磁器	皿	—	(14.3)	(2.8)	青磁		—	暗文	蛇ノ目高台	17c 獸脚?	201801 000138
40	第53図	S E62 裏込	陶器	碗	—	4.0	(4.3)	黒釉		—	—	高台無釉	—	201801 000139
41	第53図	S E62 裏込	陶器	皿	(10.0)	4.1	3.0	藁灰釉		—	—	兜巾	—	201801 000140
42	第53図	S E62 裏込下層	陶器	火入	(15.4)	8.3	7.9	褐釉		ナデ 刷毛目文	ナデ	高台無釉	17c前半	201801 000141
43	第54図	S K2	磁器	合子	(4.7)	—	1.1	染付		雲	—	—	—	201801 000009
44	第54図	S K2	磁器	皿	—	(7.2)	(1.9)	色絵		—	竹 蛇ノ目釉剥	—	17c 二次被熱	201801 000008
45	第54図	S K2	磁器	香炉	—	5.2	(1.5)	青磁		—	—	砂目	—	201801 000007
46	第54図	S K2	土製品	壁土	(4.8)	(2.2)	(1.8)	灰褐		ナデ	—	—	—	201801 000010
47	第54図	S K2	土製品	壁土	(5.5)	(4.7)	(1.1)	にぶい赤褐		ナデ	—	—	—	201801 000011
48	第57図	S K3	鉄製品	釘	14.1	2.6	1.6	—		—	—	—	和釘(5寸釘) 45.6g	201801 000148
49	第57図	S K3	銅製品	寛永通宝	2.6	2.6	0.2	—		—	—	—	文銭・新寛永 2.95g	201801 000149
50	第54図	S K4	磁器	碗	—	4.5	(4.3)	染付		草花・園線	—	「大明年製」?	—	201801 000015
51	第54図	S K4	磁器	蓋	(10.0)	—	3.1	染付		園線・雲 竹垣・松	—	—	—	201801 000016

第2表 出土遺物観察表②

遺物番号	図番号	出土遺構	材質	器種	法量			色調		調整(文様)			胎土・備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	底面高台		
					(長)	(幅)	(厚)							
52	第54図	S K 4	陶器	仏花器	—	(4.0)	(5.1)	白釉		「□川常葉」	ナデ	糸切・ナデ		201801000017
53	第54図	S K 4	陶器	皿	14.3	5.4	3.8	薬灰釉		砂目	砂目	兜巾	17c	201801000018
54	第54図	S K 17	陶器	皿	—	4.5	(1.4)	銅緑釉		—	蛇ノ目軸刺	やや兜巾	17c	201801000019
55	第54図	S K 17	陶器	碗	—	4.9	(3.4)	透明釉		—	—	高台置付軸かき		201801000020
56	第54図	S K 18	磁器	碗	(11.4)	(4.7)	6.2	染付		雲・草花 圏線	—	圏線		201801000021
57	第54図	S K 18	磁器	皿	—	—	(1.8)	染付		—	圏線・草花	圏線		201801000022
58	第54図	S K 18	陶器	碗	—	4.7	(4.3)	銅緑釉	褐釉	—	—	高台無釉	17c	201801000023
59	第54図	S K 18	陶器	皿	—	4.9	(3.2)	灰釉		—	—	やや兜巾	17c	201801000024
60	第54図	S K 19	磁器	碗	(10.4)	5.0	6.4	染付		圏線・草 菊	砂目	兜巾・砂目	釉生掛け	201801000025
61	第54図	S K 19	磁器	小皿	(6.4)	3.4	1.9	白磁		—	胎土目	胎土目 高台置付軸かき		201801000026
62	第54図	S K 19	磁器	皿	(13.8)	5.2	3.6	染付		圏線	圏線・窓 蝶・花	高台置付軸かき	17c 釉生掛け	201801000027
63	第54図	S K 19	磁器	皿	13.6	4.8	3.3	染付		草	胎土目	胎土目	17c前半	201801000028
64	第54図	S K 19	磁器	大皿	(34.0)	—	(5.5)	染付		圏線	圏線・松	—	17c	201801000029
65	第54図	S K 19	陶器	碗	(11.6)	4.7	7.4	銅緑釉		—	—	兜巾 高台無釉	17c	201801000030
66	第54図	S K 19	陶器	碗	—	—	(6.0)	銅緑釉	白釉	—	—	高台内施釉	17c	201801000031
67	第54図	S K 19	陶器	甕	13.4	—	(14.2)	褐釉		タタキ・ナデ	タタキ	—		201801000032
68	第54図	S K 22	磁器	碗	(11.6)	—	(6.3)	染付		松?・山? 圏線	—	—	17c	201801000040
69	第54図	S K 22	磁器	碗	(11.4)	—	(5.4)	染付		圏線・草花	—	—	17c	201801000041
70	第54図	S K 22	陶器	皿	—	5.2	(2.5)	透明釉		—	砂目	砂目・兜巾 高台置付軸かき	17c 二次被熱	201801000042
71	第54図	S K 22	陶器	皿	—	5.3	(3.0)	透明釉		—	砂目・貫入	砂目		201801000043
72	第54図	S K 22	陶器	皿	—	5.5	(1.7)	灰釉		—	—	砂目・兜巾	17c	201801000044
73	第54図	S K 26	磁器	碗	(13.0)	(7.8)	6.8	染付		—	—	砂目	17c前半	201801000049
74	第54図	S K 26	磁器	碗	(10.5)	—	(6.6)	染付		草	—	—	17c前半	201801000050
75	第54図	S K 26	磁器	碗	(10.3)	—	(5.4)	染付		草	—	—	17c前半	201801000051
76	第55図	S K 26	磁器	蓋	(7.5)	—	(2.1)	白磁		型押菊花	—	—		201801000052
77	第55図	S K 26	磁器	皿	—	(6.1)	(2.1)	染付		—	蝶	砂目	陶胎染付 釉生掛け	201801000053
78	第55図	S K 26	磁器	皿	(13.4)	—	(2.1)	染付		—	草花	—		201801000054
79	第54図	S K 26	陶器	碗	(10.2)	—	(5.7)	黒釉		—	—	—	16~17c 天目風	201801000055
80	第54図	S K 26	陶器	皿	(14.6)	—	(2.2)	薬灰釉		—	—	—	17c	201801000056
81	第54図	S K 26	陶器	皿	(14.6)	—	(2.2)	薬灰釉		—	—	—	17c	201801000057
82	第55図	S K 26	陶器	鉢	(34.6)	—	(8.7)	灰釉		—	砂目	—	17c 釉生掛け	201801000058
83	第55図	S K 26	陶器	鉢	—	(11.3)	(7.0)	緑褐彩		—	砂目	砂目 高台無釉	古武雄	201801000059
84	第54図	S K 26	磁器	碗	(12.0)	—	(4.7)	染付		圏線・雪・草	砂目・圏線	—	17c前半	201801000080
85	第54図	S K 26	磁器	碗	—	4.5	(2.6)	青磁染付		—	菊	高台無釉	17c	201801000081
86	第55図	S K 26	磁器	皿	13.7	5.3	3.9	染付		—	三巴・圏線	砂目・兜巾 高台置付無釉	口縁輪花	201801000082
87	第55図	S K 26	磁器	皿	(14.1)	(5.2)	3.4	染付		—	三巴・圏線	高台置付無釉	口縁輪花	201801000083
88	第55図	S K 26	磁器	皿	—	4.6	(2.4)	染付		—	草・貫入	高台置付無釉		201801000084
89	第54図	S K 26	磁器	碗	—	(7.4)	(4.8)	青磁		圏線(鉄彩)	—	砂目		201801000085
90	第54図	S K 26	磁器	皿	(13.2)	—	(4.0)	青磁		口鏤	暗文	—		201801000086
91	第55図	S K 26	陶器	皿	—	4.0	(2.6)	薬灰釉		—	胎土目	糸切 高台無釉	17c前半	201801000087
92	第55図	S K 26	陶器	皿	—	4.7	(1.7)	薬灰釉		—	蛇ノ目軸刺	やや兜巾	17c後半	201801000088
93	第55図	S K 26	陶器	皿	—	3.9	(3.8)	褐釉		—	砂目	砂目・兜巾 高台無釉	17c	201801000089
94	第55図	S K 27	磁器	鉢	(16.8)	(8.8)	9.3	染付		圏線・牡丹 若・草	口縁軸刺 砂目	高台置付軸刺	17c後半	201801000090
95	第55図	S K 27	磁器	碗	(14.8)	4.8	6.0	色絵		—	蛇ノ目軸刺 梅	砂目 高台置付軸かき	17c	201801000091
96	第55図	S K 27	磁器	人形	(9.8)	(6.3)	(5.9)	色絵		—	—	高台置付無釉	雄鶏 型物	201801000092
97	第55図	S K 27	磁器	鉢	—	(8.7)	(5.0)	青磁		—	胎土目?	蛇ノ目高台		201801000093
98	第55図	S K 27	陶器	碗	9.3	4.9	6.3	薬灰釉		刷毛目文	刷毛目文	砂目	17c後半	201801000094
99	第55図	S K 27	陶器	皿	(12.8)	4.7	4.0	薬灰釉		—	蛇ノ目軸刺 砂目	砂目	17c後半	201801000095
100	第55図	S K 27	磁器	碗	—	4.4	(4.6)	染付		圏線・草花	—	「大明年製」	~18c前半	201801000060
101	第55図	S K 27	磁器	碗	(1.7)	4.1	5.6	染付		圏線・梅	—	—	~18c前半	201801000061
102	第55図	S K 27	磁器	碗	—	(5.8)	(3.2)	染付		圏線・梅	梅	—	18c	201801000062

第3表 出土遺物観察表③

遺物 番号	図番号	出土遺構	材質	器種	法 量			色 調		調 整 (文 様)			胎 土・備 考	登録 番号
					口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面	底面 高台		
					(長)	(幅)	(厚)							
103	第55図	S K 27	磁器	碗	—	3.9	(2.9)	染付		圏線	—	「大明年製」	18c	201801 000063
104	第55図	S K 27	磁器	皿	(23.2)	—	(3.0)	染付		圏線・松	鑑文・山水	—	17c	201801 000064
105	第55図	S K 27	磁器	皿	(20.6)	(11.4)	(3.4)	染付		圏線・松	波・山水	—	17c	201801 000065
106	第55図	S K 27	磁器	皿	(13.4)	(5.6)	2.8	染付		—	波	砂目 やや兜巾	17c	201801 000066
107	第55図	S K 27	磁器	皿	—	(6.2)	(2.8)	染付		—	—	砂目	17c	201801 000067
108	第55図	S K 27	陶器	碗	(12.3)	(6.0)	4.0	褐釉		象嵌梅	打刷毛目文	高台量付軸かき		201801 000068
109	第55図	S K 27	陶器	碗	—	5.0	(3.8)	藁灰釉	白土	刷毛目文	刷毛目文	砂目	17c後半	201801 000069
110	第55図	S K 27	陶器	皿	—	(5.2)	(3.9)	銅緑釉		—	蛇ノ目軸割 砂目	高台無軸	17c後半	201801 000070
111	第55図	S K 27	陶器	灯明皿	8.8	4.7	2.8	褐釉	橙	ナデ	—	糸切		201801 000071
112	第55図	S K 27	土製品	甌	4.6	2.6	6.5	にぶい黄橙		ナデ	ナデ	—		201801 000072
113	第55図	S K 27	陶器	鍋	21.3	—	(9.9)	褐釉		—	—	ケズリ	18c後半～ 外面煤付着	201801 000073
114	第55図	S K 31	磁器	皿	(13.2)	4.6	3.9	染付		—	草	砂目	17c前半 軸生掛け	201801 000074
115	第56図	S K 34	磁器	盃	—	—	(3.3)	染付		圏線・梅	—	—		201801 000075
116	第56図	S K 34	陶器	碗?	—	4.7	(4.8)	藁灰釉		白土化粧による 文字有り	—	砂目・ケズリ 高台無軸		201801 000076
117	第56図	S K 34	陶器	皿	—	(4.2)	(2.6)	透明釉		—	—	砂目・兜巾	17c前半	201801 000077
118	第56図	S K 34	瓦質土器	播鉢	—	—	(5.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケメ ユビオサエ	ハケメ	—	16～17c	201801 000078
119	第56図	S K 34	土師器	土鍋	—	—	(5.2)	黒	にぶい橙	ハケメ ナデ	ハケメ	—	16～17c	201801 000079
120	第56図	S K 35	磁器	碗	(12.0)	5.2	6.5	染付		圏線・雲	砂目	砂目	17c前半	201801 000096
121	第56図	S K 35	磁器	皿	(22.0)	(7.2)	5.3	染付		—	砂目・草花	砂目	17c前半	201801 000097
122	第56図	S K 35	陶器	碗	(10.8)	4.6	5.6	透明釉	瑠璃釉	—	—	やや兜巾		201801 000098
123	第56図	S K 35	陶器	皿	—	5.1	(2.4)	透明釉		—	—	砂目	17c前半	201801 000099
124	第56図	S K 37	磁器	皿	(14.3)	(6.0)	2.7	染付		—	圏線・草	砂目	17c	201801 000100
125	第56図	S K 42	磁器	碗	9.4～ 10.1	4.0	5.5	染付		蔓草	—	—	18c	201801 000110
126	第56図	S K 42	磁器	碗	9.6～ 10.1	4.4	5.1	染付		花? こんにやく印判	—	—	18c	201801 000111
127	第56図	S K 42	磁器	皿	19.5	9.8	5.8	染付		蔓草	五弁花・牡丹 水鳥・こんにやく	渦福		201801 000112
128	第56図	S K 42	土製品	土鉢	(5.8)	(5.9)	(8.3)	灰白		ナデ	ナデ	—	ガラガラ 猿が乗る	201801 000113
129	第56図	S K 49	磁器	碗	(10.8)	(4.4)	5.8	色絵		圏線・窠・雷文 梅・四方罫	—	高台量付軸かき		201801 000101
130	第56図	S K 49	磁器	碗	(15.0)	—	(4.6)	色絵		草?	水草・波	—		201801 000102
131	第56図	S K 49	磁器	大皿	(30.0)	—	(4.1)	染付		草	芙蓉手・花	—	17c	201801 000103
132	第56図	S K 49	陶器	碗	(11.4)	—	(5.5)	銅緑釉	藁灰釉	—	—	—	17c	201801 000104
133	第56図	S K 54	磁器	瓶	—	—	(6.3)	染付		「福」	—	—	17c前半	201801 000105
134	第56図	S K 54	陶器	皿	(21.4)	(8.4)	4.8	緑褐彩		—	刷毛目文 砂目	砂目	17c	201801 000106
135	第56図	S K 54	土師器	焙烙	29.3	—	6.4	にぶい橙		ハケメ	ナデ	ハケメ	雲母含む	201801 000142
136	第56図	S K 55	磁器	碗	(9.8)	4.1	5.9	染付		草花	—	記号あり	18c くらわんか手	201801 000107
137	第56図	S K 55	磁器	皿	10.0	5.3	2.9	染付		蔓草	松・蔓草	記号あり	18c	201801 000108
138	第56図	S K 55	陶器	片口鉢	(21.4)	(8.6)	10.9	藁褐釉	白土化粧	刷毛目文	—	砂目	17c	201801 000109
139	第57図	S K 57	磁器	皿	(13.8)	(8.2)	2.7	染付		—	櫛歯文	砂目・圏線	17c	201801 000123
140	第57図	S K 57	陶器	大皿	—	9.7	(5.9)	灰釉		—	砂目	高台無軸	17c	201801 000124
141	第57図	S K 59	磁器	碗	—	3.7	(4.3)	染付		松・草花・岩	—	—	18c くらわんか手	201801 000125
142	第57図	S K 59	磁器	水滴	(4.1)	(2.0)	(2.9)	染付		青海波	—	布目	板作り	201801 000126
143	第57図	S K 59	陶器	皿	(17.2)	6.2	5.4	藁灰釉	刷毛目文	刷毛目文	蛇ノ目軸割 刷毛目文	胎土目 高台無軸	17c後半	201801 000127
144	第57図	S K 59	陶器	皿	—	(10.5)	(4.7)	藁灰釉	刷毛目文	刷毛目文	蛇ノ目軸割 刷毛目文	高台無軸	17c後半	201801 000128
145	第57図	S K 68	磁器	碗	11.0	4.7	6.1	染付		葡萄	蝶引・雲	高台量付軸割	幕末 端反碗	201801 000143
146	第57図	S K 68	磁器	碗	10.9	4.8	6.1	染付		葡萄	蝶引・雲	高台量付軸割	幕末 端反碗	201801 000144
147	第57図	S K 68	磁器	碗	10.0	4.1	5.8	染付		折鶴	見込文様あり 雷文	—	幕末 端反碗	201801 000145
148	第57図	S K 68	磁器	手洗鉢	(15.2)	—	(6.2)	染付		折鶴・松 連弁	四方罫・圏線	—	幕末	201801 000146
149	第57図	S K 68	磁器	皿	13.3	8.6	4.0	染付		花	松・雲	蛇ノ目凹高台	19c	201801 000147
150	第57図	S K 68	陶器	植木鉢	36.5	22.6	25.6	白土化粧	褐釉	—	回転ナデ	胎土目	18c?	201801 000153
151	第57図	S P 6	磁器	皿	—	(5.4)	(2.8)	染付		—	牡丹	砂目	17c	201801 000012
152	第57図	S P 6	瓦質土器	播鉢	—	—	(7.3)	にぶい橙	灰	ナデ	ハケメ	ナデ	16c?	201801 000013
153	第57図	S P 6	陶器	大皿	—	8.7	(3.7)	藁灰釉		—	砂目	胎土目?・高台無軸 二重高台?	17c	201801 000014

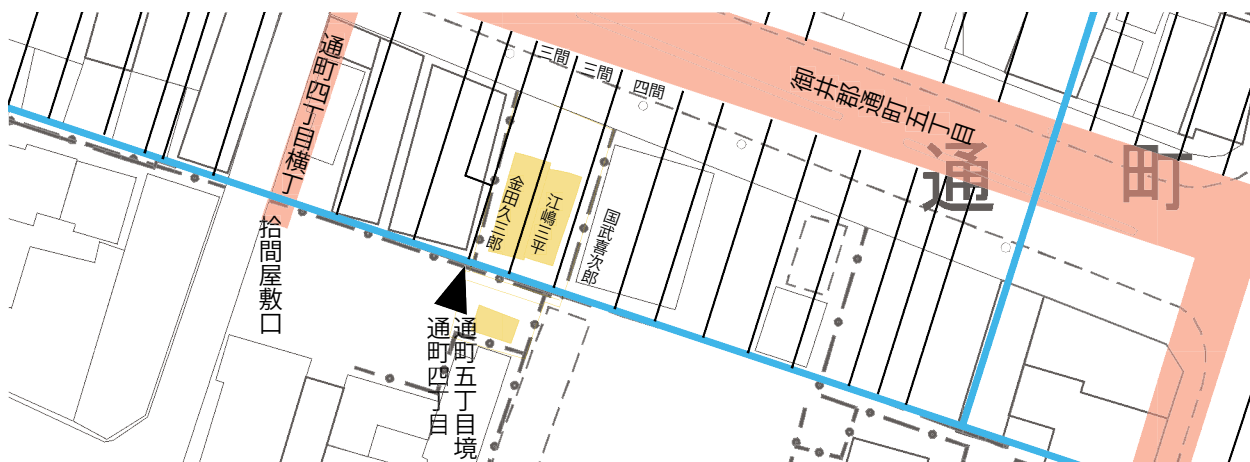
IV. 総括

1. 遺構の変遷と配置

今回の調査で検出された遺構の年代について述べる。17世紀の遺構はS P 6、S K 17、S K 18、S K 19、S E 20、S E 23、S K 26、S K 31、S K 34、S K 35、S K 37、S K 37、S K 54、S K 57、S E 62である。調査区の全体に分布しており、井戸や土坑といった、本来町屋の裏手に設置される類の遺構であることや、17世紀前半に遡る遺物も多いことから、城下町建設当初から当地が町屋として機能していたことが窺える。18世紀の遺構はS K 2、S K 4、S E 21、S K 22、S K 27、S K 42、S E 51、S K 55、S K 59である。この時期の遺構も調査区全体に広がっており、井戸と土坑が主体を成す。19世紀の遺構はS B 1とS K 68である。前代まで井戸や土坑が設置されていた調査区北側に、土坑を切る形で建物が設置されていることから、この時期に母屋建物が南側に拡張されたことが窺える。東区の北側は遺構が少ないため、この位置にも建物が建っていた可能性があるが、柱穴が検出されておらず、掘立柱建物とは異なる構造の建物の存在が示唆される。また、井戸が多く検出されていることも注目される。総じて掘方が大きく、本体は真砂で埋め戻されることが多い。掘方を伴わないものや、甕を組んで枠とした井戸もある。

2. 調査区の位置と居住者

屋敷境は今回の調査では検出されていない。『明治五年通町絵図』との照合では調査区の中央あたりに屋敷境があると思われるが、17世紀のS K 26など東西両区をまたぐ遺構もあり、少なくとも17世紀までは、東西両区は同一敷地であったとみられる。同絵図において当地は西から三間が「金田久三郎」、中の三間が「江嶋三平」、東一間分が「国武喜次郎」の敷地に当たる。国武喜次郎敷地は調査区東壁より東方に当たり、今回の調査区に入っていないため詳述しない。居住者の性格を考える上で示唆的な遺物として、17世紀の井戸S E 62の裏込めから出土した磁器瓶(38)などが挙げられる。38は底部外面に「三郎右衛門」と呉須で描かれている。焼成前に書かれていることから、商店など屋号を記した特注品の可能性があり、所有者を表すものとみられる。ただし、金田家と江嶋家がいつから当地に居住したか明らかでなく、「三郎右衛門」との関係も不明である。



第8図 明治五年通町絵図と地図との照合図 (1/1,000)



第9図 西区全景（北から）



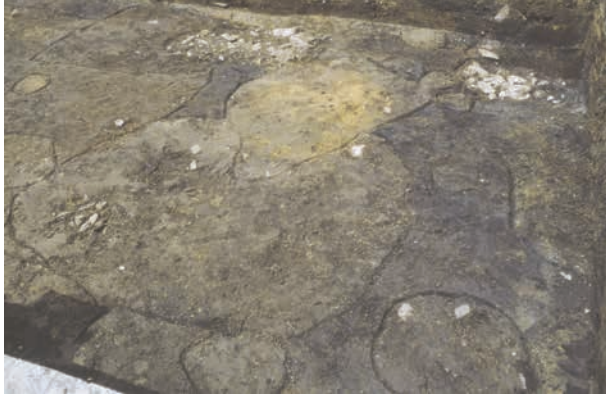
第10図 東区全景（北から）



第11図 南区東側近景（北東から）



第12図 南区西側近景（南西から）



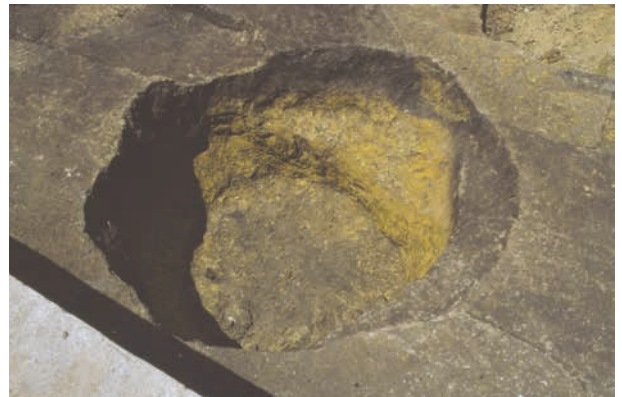
第13図 SB 1 検出状況 (東から)



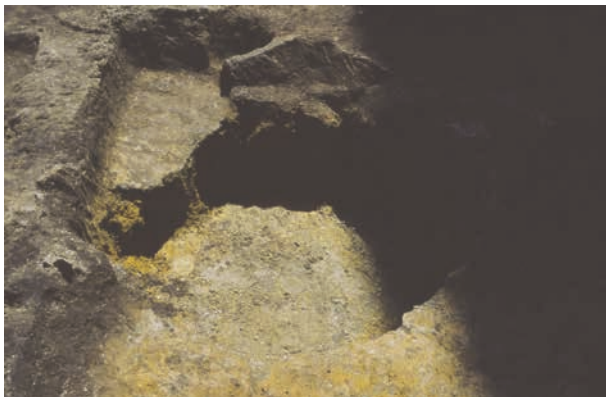
第14図 SB 1 完掘状況 (東から)



第15図 SE 20・SE 21 掘削状況 (西から)



第16図 SE 20 掘削状況 (南東から)



第17図 SE 23 掘削状況 (北から)



第18図 SE 51 完掘状況 (東から)



第19図 SE 60 掘削状況 (北西から)



第20図 SE 62 検出状況 (南東から)



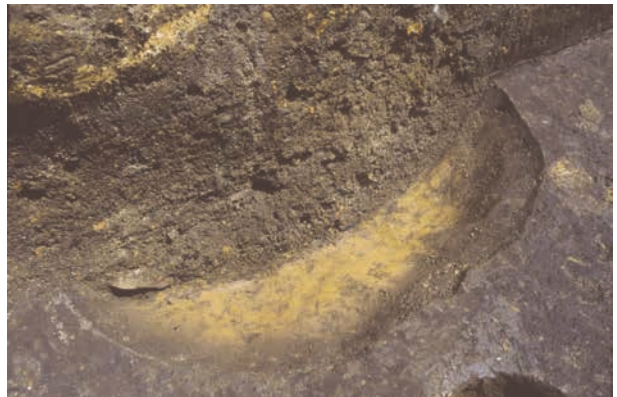
第21図 SE 62土層断面 (南から)



第22図 SE 62掘削状況 (北から)



第23図 SE 62土留め石検出状況 (南西から)



第24図 SK 2完掘状況 (南西から)



第25図 SK 3完掘状況 (北から)



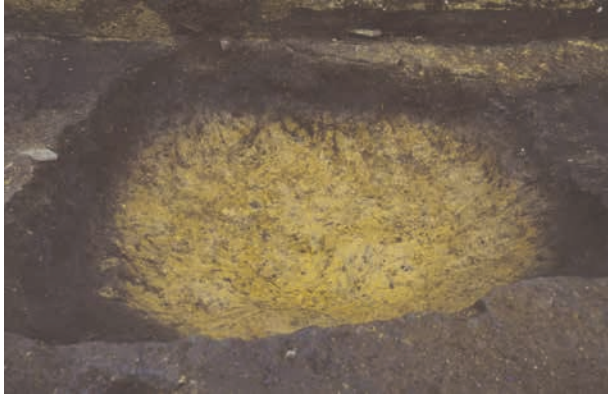
第26図 SK 4完掘状況 (北西から)



第27図 SK 17完掘状況 (北から)



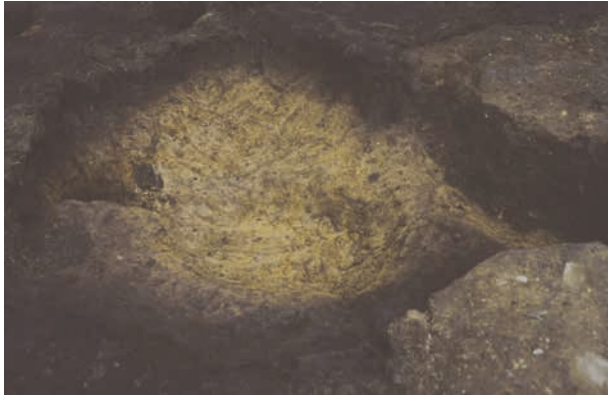
第28図 SK 18土層断面 (東から)



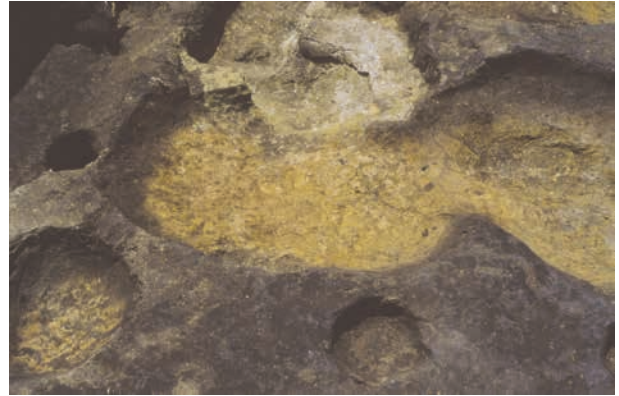
第29図 SK18完掘状況（東から）



第30図 SK19土層断面（南から）



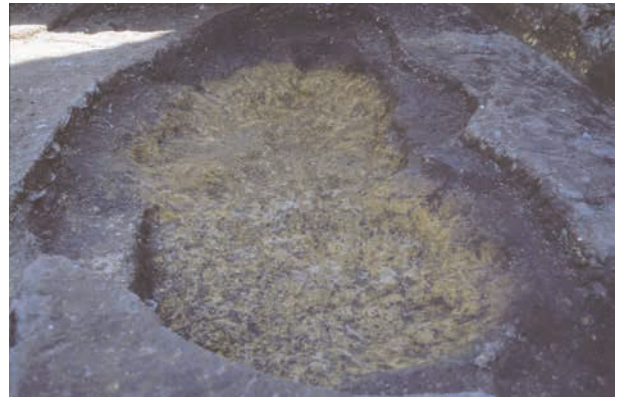
第31図 SK19完掘状況（南から）



第32図 SK22完掘状況（北から）



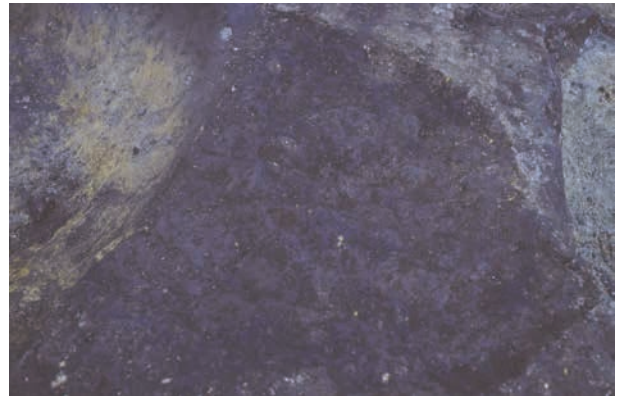
第33図 SK26掘削状況（南から）



第34図 SK27完掘状況（北から）



第35図 SK31土層断面（南から）



第36図 SK31完掘状況（南から）



第37図 SK34完掘状況（西から）



第38図 SK35完掘状況（南東から）



第39図 SK42土層断面（東から）



第40図 SK42完掘状況（東から）



第41図 SK49完掘状況（南から）



第42図 SK54完掘状況（西から）



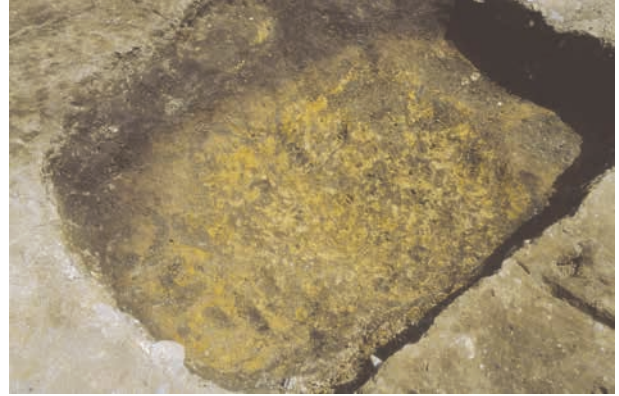
第43図 SK55完掘状況（北から）



第44図 SK57土層断面（南から）



第45図 S K 57完掘状況（南から）



第46図 S K 59完掘状況（北西から）



第47図 S K 68土層断面（南から）



第48図 S K 68完掘状況（北から）



第49図 S P 6完掘状況（南から）



第50図 通町遠景（西から）



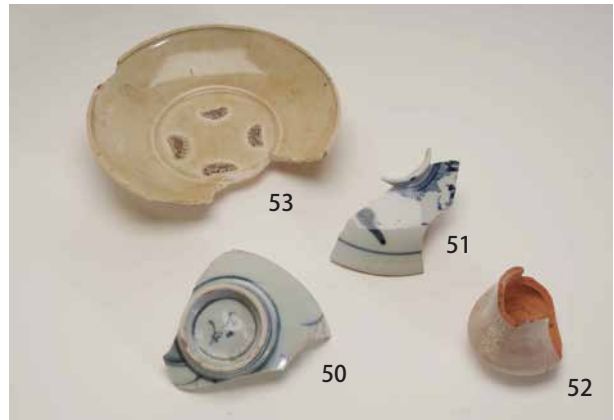
第51図 調査区南側遠景（北から）



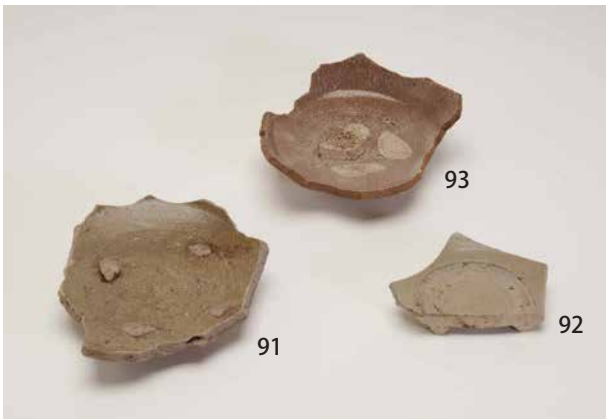
第52図 東区近景（南から）



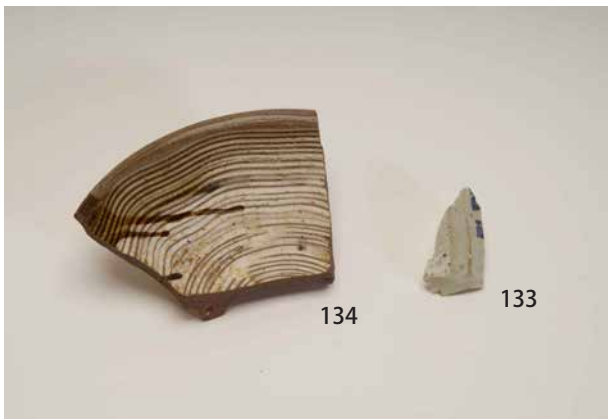
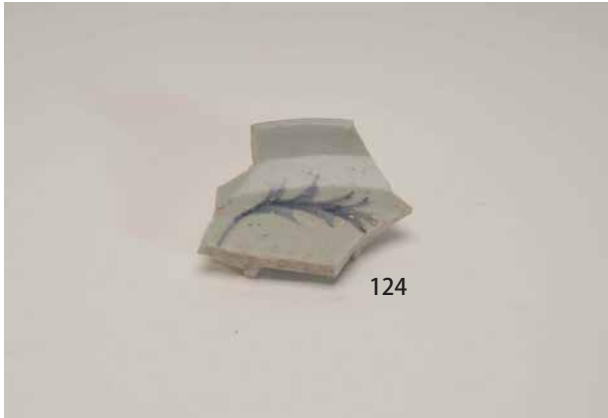
第53図 出土遺物写真①



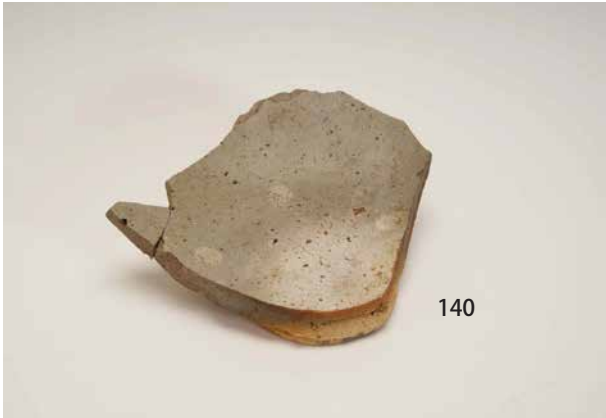
第54図 出土遺物写真②



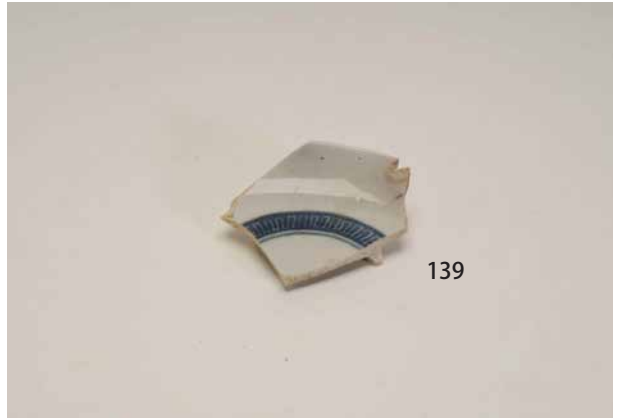
第55図 出土遺物写真③



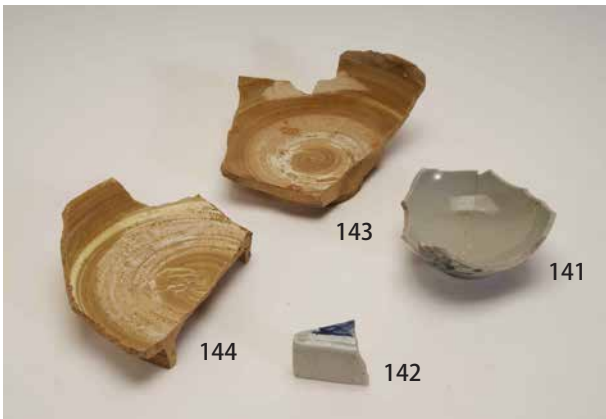
第56図 出土遺物写真④



140



139



143

141

144

142



148

146

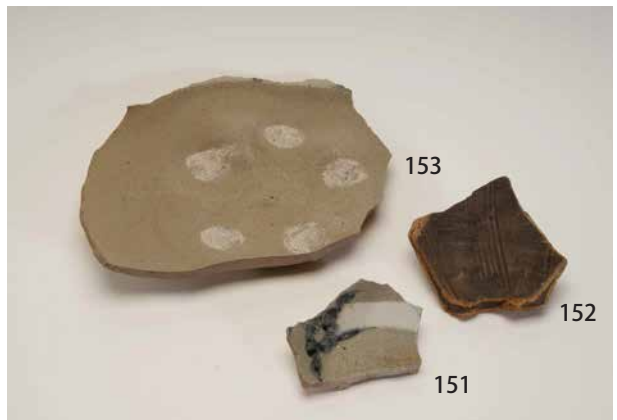
145

147

149



150



153

152

151



48

13



14

20

49

第57図 出土遺物写真⑤

報 告 書 抄 録

ふりがな	くるめじょうかまちいせき だいにじゅうくじはっくつちょうさほうこく
書名	久留米城下町遺跡 — 第29次発掘調査報告 —
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第409集
編著者名	江頭 俊介
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL 0942-30-9225 FAX 0942-30-9714 E-mail : bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	2019 (平成31) 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
くるめじょうかまちいせき 久留米城下町遺跡 だいにじゅうくじ 第29次調査	ふくおかけんくるめし 福岡県久留米市 とおちよ 通町103-5 ひよしまち 日吉町71-1	40203	031132	33° 14' 55"	130° 27' 53"	20180411 ～ 20180614	170㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久留米城下町遺跡 第29次調査	集落	近世	掘立柱建物跡 1棟 井戸 6基 土坑 31基 溝 1条 ピット	近世陶磁器等	近世初頭から近代に かけての町屋の遺構 を検出

要 約

久留米市中心街の通町の調査。旧通町五丁目にあたる。近世初頭から連綿と続く町屋の遺構が検出された。

土木工事の届出日	平成29年11月14日	遺物の発見通知日	平成25年6月18日 (30文財第410号)
----------	-------------	----------	---------------------------

久留米城下町遺跡

— 第29次発掘調査報告 —

久留米市文化財調査報告書 第409集

平成31年3月31日

発行 久留米市教育委員会

編集 久留米市 市民文化部 文化財保護課
福岡県久留米市城南町15-3

印刷 株式会社 東 広
久留米市御井旗崎五丁目1番20号